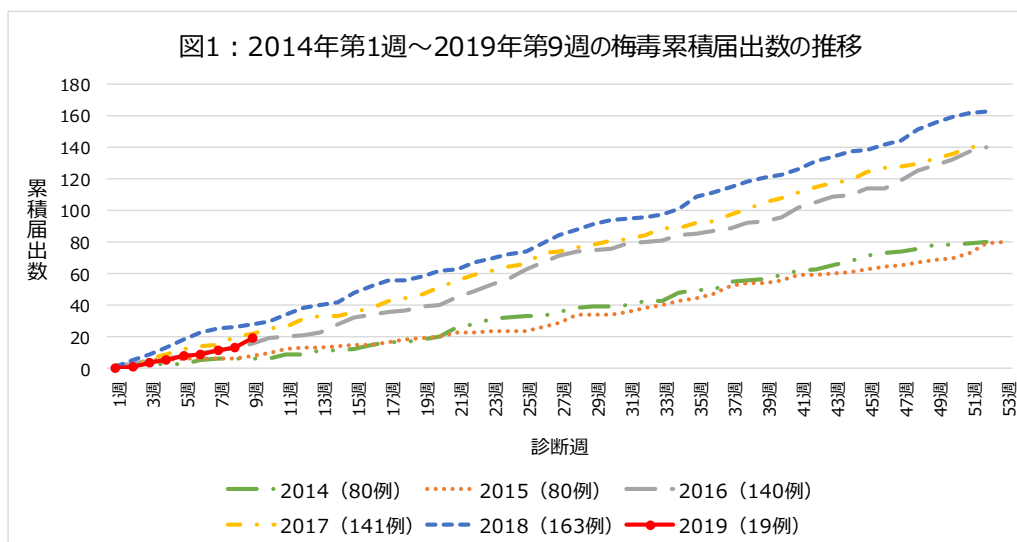


【今週の注目疾患】

【梅毒】

2019年第9週に6例の梅毒の届出があり、2019年第1～9週の累計は19例となった。県内における梅毒の届出は、2016年に前年比60例増と大きく増加し、以降も届出は増加し、2018年には163例の届出を認めた(図1)。



2018年に届け出られた163例の内訳は以下である。

- 性別

男性：115例 (70.6%)

女性：48例 (29.4%)

- 年齢群

男性：10代2例、20代22例、30代30例、40代29例、50代13例、60代14例、70歳以上5例

女性：10歳未満1例、10代3例、20代26例、30代11例、40代4例、60代2例、70歳以上1例

- 病型

男性：早期顕症梅毒 (I期) 32例、早期顕症梅毒 (II期) 34例、晩期顕症梅毒9例、無症候40例

女性：早期顕症梅毒 (I期) 7例、早期顕症梅毒 (II期) 18例、無症候23例

- 推定感染経路 (記載のあったものについて：重複あり)

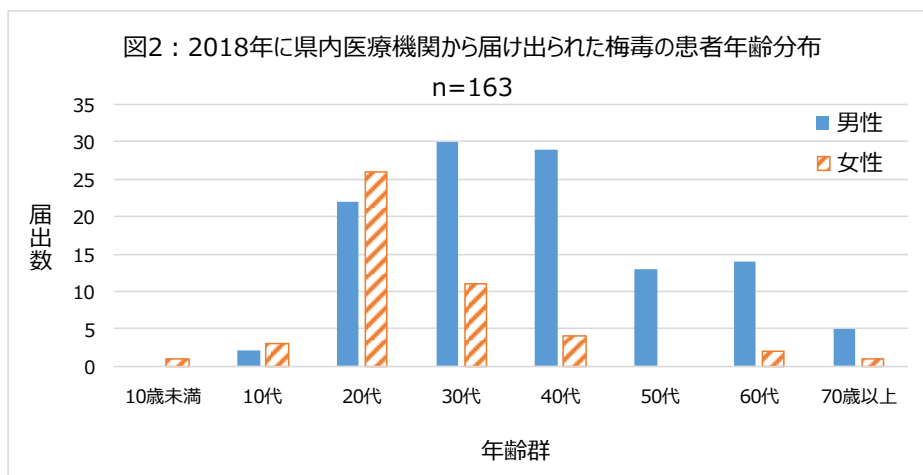
男性：性的接触 (性交) 69例、性的接触 (経口) 14例

性的接触 (同性間) 15例、性的接触 (異性間) 63例、性的接触 (不明) 12例

女性：性的接触 (性交) 39例、性的接触 (経口) 3例、母子感染1例

性的接触 (同性間) 2例、性的接触 (異性間) 39例、性的接触 (不明) 3例

男性は20代～60代までの幅広い年代において、女性は20代の届出が多かった(図2)。また、推定感染経路については異性間性的接触の届出が多かった。



近年の梅毒届出数の増加を受け、梅毒の発生動向をより詳細に把握するため、2019年1月1日から以下の情報が届出事項として追加された。

- 性風俗の従事歴・利用歴の有無
- 口腔咽頭病変
- 妊娠の有無
- 過去の感染歴（治療歴）
- HIV感染症の合併の有無

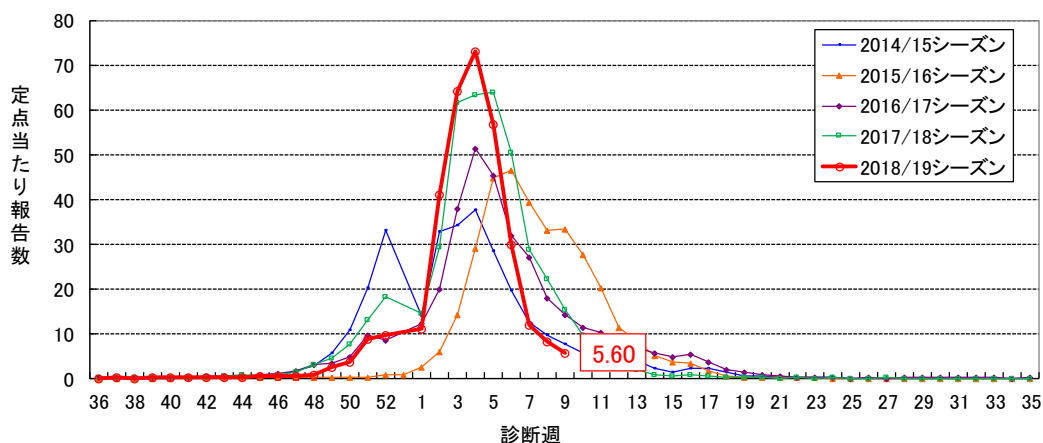
普及啓発等の対象群の把握や先天梅毒の発生予防のため、届出の際には、これらの項目について記入漏れがないようお願いしたい。

梅毒の感染連鎖を防ぐため、感染が疑われる症状がみられた場合には、早期に医師の診断・治療を受ける必要がある。コンドームの不適切な使用によるリスクの上昇や、オーラルセックスやアナルセックスでも感染すること、梅毒は終生免疫を得られず再感染することなど、引き続き広く梅毒について啓発をしていく必要がある。

【インフルエンザ】

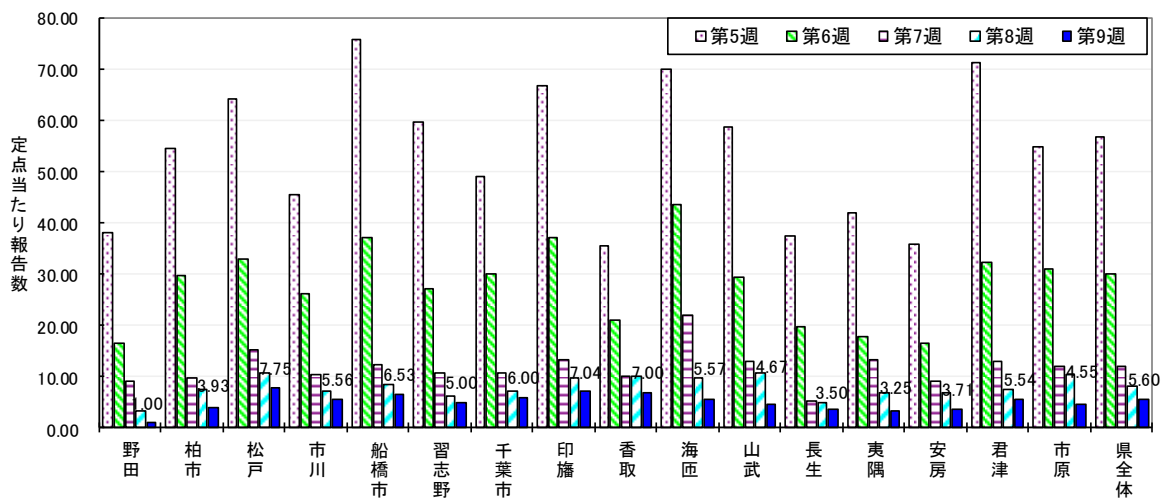
2019年第9週に県内定点医療機関から報告されたインフルエンザの定点当たり報告数は、定点当たり5.60（人）であった（図3）。

図3：県内定点医療機関から報告されたインフルエンザの定点当たり報告数の推移（シーズン別）



県内16保健所管内全てにおいて、前週より定点当たり報告数は減少した。また、全保健所管内で定点当たり報告数10を下回った。報告の多い上位3保健所管内とその定点当たり報告数は、松戸保健所（7.75）、印旛保健所（7.04）、香取保健所（7.00）であった（図4）。

図4：直近5週のインフルエンザの定点当たり報告数の推移(保健所別)



2019年第9週の小児科・インフルエンザ定点医療機関の協力による迅速診断結果の報告は、1,130例中A型1,044例（92.4%）、B型83例（7.3%）、A and B型0例（0.0%）、A or B型3例（0.3%）であった。